



シェイクスピア原作より

## ミュージカル「ロミオとジュリエット」復活編

脚本・作詞:若松慎吾／作曲:近藤浩章

稽古用台本 2012.1.1 稿

### 【概要】

「ロミオとジュリエット」を原作にした、32 曲の音楽構成。

ストーリーは原作とほぼ同じだが、愛の力が恨みを乗り越えて両家を和解させ、2人とも生き返るという、ハッピーエンドのメルヘンになっている。

テロによる報復が絶えない世界に対し「人を恨む者には、復讐が連なって自らを不幸にし、人を赦す者には平穏が宿る」という、平和のメッセージを込めて描く。

### 【登場人物】

(モンタギュー家)

ロミオ(モンタギュー家の息子)  
ボレッシオ(モンタギュー家の当主)  
フロレンス(当主の妻)  
マキューシオ(ロミオの従兄弟)  
ベンヴォーリオ(ロミオの従兄弟)  
バルサザー(ロミオの従僕)  
モンタギュー家の若者たち

(キャピュレット家)

ジュリエット(キャピュレット家の娘)  
オルブラス(キャピュレット家の当主)  
ラベンナ(当主の妻)  
ティボルト(ジュリエットの従兄弟)  
ガンビーノ(ジュリエットの従兄弟)  
ピトリーナ(キャピュレット家の乳母)  
ピーター(乳母の召使い)  
キャピュレット家の若者たち

ロレンス(神父)  
パリス伯爵(ジュリエットの許婚者)  
ロザライン(ロミオが恋する女性)  
マジョーレ(毒薬売りの老婆)  
運命の女王 (Sop)  
運命の三女神 クロソフィ(Sop)  
運命の三女神 メグラノー(Mez)  
運命の三女神 アルトポス(Alt)  
天使の子どもたち  
市民たち、子どもたち 多数

## 全曲一覧

### ～第1幕～

- 01 序曲
- 02 両家の争い
- 02A 復讐の剣
- 03 ロザラインへの愛
- 04 忘れろよ、あんな女
- 05 ジュリエットの縁談
- 06 出会いの予感
- 07 仮面舞踏会
- 08 宿命の恋
- 09 バルコニーの誓い
- 10 ロレンス神父の哲学的レシタティブ
- 11 恋の縄梯子(なわばしご)
- 12 結婚式
- 13 決闘
- 14 混乱
- 15 ロミオの追放
- 16 変わらぬ愛

### ～第2幕～

- 17 夜明けの別れ
- 18 パリス伯爵の求婚
- 19 木曜日は教会へ
- 20 薬を授けるロレンス
- 21 徹夜の召使たち
- 22 眠るジュリエット
- 23 両親の嘆き
- 24 マンチュアの白い午後
- 25 薬売り
- 26 すれちがい
- 27 パリス伯爵の愛
- 28 墓をあけるロミオ
- 29 パリス伯爵の死
- 30 ロミオの死
- 31 ジュリエットの死
- 32 レクイエムからの復活

舞台装置は、ステージ奥に鉄パイプや平台で立体的に組まれた、抽象舞台。  
また、装置にはところどころ布が巻きついたり、上空から布でオブジェが吊り下げられたりしている。緞帳は1枚緞帳よりもオペラカーテン(絞り緞帳)が望ましい。

## 第1幕

——序曲とともに、客席は暗くなり、幕が上がる。

——運命と三女神たち、群集がいる。

### M01 序曲

運命  
錆びついた 古い争いに咲いた  
若き恋の ものがたり  
三日の恋 四日目の 悲劇  
運命(さだめ)のままに流れゆくのか  
この世の争いが 運命を作るのか  
いくつかの 憎しみが 今もまた  
いくつかの 命を 奪ってゆく  
  
いくつかの 真実と  
取り戻せない 愛  
いくつかの 青春と  
還らない 命

### M02 両家の争い

◆序曲から続いてテンポの速い8ビートのイントロに乗って、キャピュレット家の若者たちが激しく攻撃的に踊り、キャピュレット家の当主・オルブラスが歌う。

オルブラス  
わしは がまんができない  
モンタギューという名前は  
この世に 存在させてはならぬ  
うじ虫 モンタギュー！  
やつらが ヴェローナにいる限り  
この町に 平和はない この町に 安らぎはない  
「You! モンタギュー, Go to hell!」  
塩漬けにして 掃き溜めへ 叩き込んでやれ

◆モンタギュー家の若者たちが上手から登場。キャピュレット家に対抗するように、威圧的に踊り、モンタギュー家の当主・ボレッシオの歌が始まる。

ボレッシオ  
わしは がまんができない  
キャピュレットという名前は  
この世に 存在させてはならぬ  
ひきがえる キャピュレット！  
やつらが ヴェローナにいる限り  
この町に 平和はない この町に 安らぎはない  
「Get out, キャピュレット!」  
踏み潰して 野良犬の エサにくれてやれ

双方  
百年の昔から きさまらは 敵なのだ

あのときの あの恨み わしたちは忘れない  
 必ずきさまらを 叩きつぶして  
 「モンタギューという名前を」  
 「キャピュレットという名前を」  
 消してやるのだ きっと  
 オルブラス 「行け、ティボルト！」  
 ボレッシオ 「負けるな、マキューシオ！」

◆間奏。両家の若者たちが入り乱れて、争いを繰り広げるダンス。この争いのダンスの中心となるのは、モンタギュー家はマキューシオとベンヴォーリオ、キャピュレット家はティボルトとガンビーノである。このあとの芝居でセリフがあるように、マキューシオとティボルトが争い、ティボルトは手傷を負う形となる。

双方 千年の時をかけ 一族で築きあげた  
 聖なる地 ヴェローナの 境界は譲れない  
 必ずきさまらを ひざまずかせて  
 オルブラス 「積年の恨み」  
 ボレッシオ 「こちらこそ」  
 双方 思い知らせて やるぞ

◆エンディングでモンタギュー家の若者たちは、勝ち誇ったように上手へ去っていく。キャピュレット家のティボルトとガンビーノをはじめ、若者たちがその場へ残る。

ティボルト： くそー、モンタギューのやつらめ！  
 ガンビーノ： ティボルト、けがは？  
 ティボルト： かすり傷だ。さっきのは、モンタギューのマキューシオだな。  
 ガンビーノ： けっこう、腕のたつやつだ。あいつには、気をつけないと。  
 ティボルト： 次は必ず決着をつけてやる。あの剣を使おう。(キャピュレット家の当主・オルブラスが入ってくる)叔父上、あの剣を、お借りしてよろしいですか。  
 オルブラス： あれはやめておけ。わがキャピュレット家に伝わる名剣だが、もう 100 年以上前から、封印されておる。  
 ティボルト： 封印？  
 ガンビーノ： どうして？  
 オルブラス： わしも詳しくは知らぬが、あの剣には、恨みの魔力が乗り移っておる。復讐の念に燃えるものが用いれば、力を与えてくれるが、相手を倒したあとで、自分の身にも災いが襲うと、いわれている。(退場)

———ティボルトが「復讐の剣」を取ろうとする。不可思議な音楽が流れる。

## M02A 復讐の剣

———ためらったが、ティボルトは剣を手にする。

ガンビーノ:だいじょうぶか？

ティボルト:どうってことないさ。(剣を振って)これはいい。魔力が俺にのりうつった感じがして、ぞくぞくするぜ。

ガンビーノ:ところで、さっきモンタギューのやつらの中に、ロミオはいなかったな？

ティボルト:ロミオは剣の腕が立つが、このごろあいつの剣はなまくらになってる。

若者A :ベランジェ家のロザラインに片思いで、気がそぞろだい。

ガンビーノ:へえ。

### M03 ロザラインへの愛

◆ロミオは、ジュリエットと衝撃的な出会いをする直前まで、ロザラインという年上の女性に恋していた。ロザライン役は、軽やかにソロダンスのできる、大人の雰囲気を出せる役者が望ましい。ロザラインはイントロの8小節で、軽やかにソロダンスを踊って登場。ロミオが想いを歌いかける間も、自分が慕う男のイメージを追いかけて宙を見つめ、泉のほとりに座り込んでいる。

ロミオ                      泉のほとりに 優しく咲いてる  
                                 白いバラのような あなたの瞳は  
                                 今日も 寂しい翳(かげ)をたたえて  
                                 見知らぬ恋を 映している

                                 ため息から 立ち昇る 煙は  
                                 燃えて 輝く 炎となり  
                                 おさえれば 涙の 海となる  
                                 恋は 優しそうな 天使の仮面をつけた 悪魔さ  
                                 息もつまる 苦さと 砂糖漬けの甘さ

◆間奏。再びロザラインが軽く踊ったあと、ソロで歌う。

ロザライン                  泉のほとりで 待ちます いつまでも  
                                 すべてを捨て去り 戻ると誓った  
                                 二度とは還らぬ 恋を 追いかけて  
                                 夢のように 過ぎた季節よ

                                 ため息から 立ち昇る 煙は  
                                 燃えて 輝く 炎となり  
                                 おさえれば 涙の 海となる

ロミオ                      (ad lib)「おお、ロザライン！ 天使の矢も届かない  
                                 ロザライン、恋する僕に 心を閉ざし  
                                 おお、ロザライン！ 純潔の鎧(よろい)に身を固くする」  
                                 重くのしかかる 鳥の その羽根  
                                 白く燃え上がる 冷たい 炎  
                                 ああ あまりに賢い あなた  
                                 だけど その美しさを無駄に  
                                 幸せを間違え あなたは行く

◆ロザラインのソロダンスが続くエンディングでは、ロミオの想いとすれ違いを表現しながら、ロザラインはロミオを振り切って、去っていく。

——モンタギュー家の若者たちが登場して、ロミオを見つける。

若者B                      :ロミオがいた。  
若者C                      :またここか。いくらロザラインをおっかけたって、ムダだろう。  
若者D                      :こんな場合じゃ、ないってのにな。

#### M04 忘れろよ、あんな女

モンタギュー家の 悪いこと 言わない 忘れろよ あんな女  
若者たち 男はだれでも 浮気な船乗り  
港で体を休めたら  
また荒海へ 乗り出して行くさ  
きみの そんな恋は ひとときの迷いにして  
新しい世界へ 出かけて行こう

◆間奏。ストリートダンスのイメージで、それぞれのキャラクターを出しながら、コミカルで躍動的なダンス。

あいつらの屋敷は 今夜が舞踏会だ  
可愛い娘(こ)を見つけて 踊りまкруろうぜ  
その目に 焼きついた 雪のような 白い鳥も  
明日になれば カラスに見えるさ

——キャピュレット家。当主夫人のラベンナ、娘のジュリエット、乳母のピトリーナが登場。

ラベンナ :ねえジュリエット、あなたにいいお話があるの。

ジュリエット :なんででしょう。

ピトリーナ :今夜の舞踏会で、素敵なお方をご紹介いただけるそうですよ！

#### M05 ジュリエットの縁談

ラベンナ パリスさまを 好きになれるかい  
今夜の宴(うたげ)で お会いできるのよ  
あの方のお顔は 知性にあふれる 書物  
美しい ペンで書かれた 楽しい物語  
  
もし その 美しい書物を  
どこから読もうかと 迷ったら  
目という目次を まず見てごらん  
この愛の本は あなたのために  
これから 表紙をつけて 綴じるとこなのさ

◆間奏。パリス伯爵が子どもたちに剣術や学問を教えている。ジュリエットはまだ幼さも見せながら、乳母のピトリーナと嬉しそうに自由奔放に踊る。

魚は これから 泳ぎはじめる  
金の表紙をつけた すてきな物語なら  
誰の目にも 立派な宝物  
どう パリスさまを 好きになれるかい

若者E :さあ、キャピュレットの屋敷だ。

若者F :こんな人数でまぎれこんで、だいじょうぶかな。

ベンヴェオーリオ :平気平気、みんなが仮面をつけて踊るんだ。ばれるわけないさ。

#### M06 出会いの予感

運命 火は火で弱められ 苦しみは苦しみで 抑えられる  
悲しみも ほかの悲しみで 癒える  
新しい毒を 目に注せば  
古い毒は 消え去る

(語り)だが、抜き差しならないことが起こる  
星に宿る 恐ろしい運命が  
今宵の祝宴に 襲いかかり  
災いを起こして 命を奪おうとする

### M07 仮面舞踏会

——キャピュレット家と招待客たちによるジャズダンス調の仮面舞踏会。

オルブラス : みなさん、今宵はキャピュレット家の舞踏会へ、ようこそ。

ラベンナ : では、音楽を始めましょう。

◆ロミオとジュリエットが衝撃的な出会いを遂げる、キャピュレット家の舞踏会シーン。この舞踏会は、ロックのリズムに乗ったジャズダンス。

イントロでは、仮面をつけた参加者たちが、怪しげに踊っている。そこには、ひそかに紛れ込んできたロミオなど、モンタギュー家の若者たちもいる。やがて当主オルブラス夫妻により、パリス伯爵がジュリエットに紹介されて、二人はしばらく踊る。

見ていたロミオは、ジュリエットに一目ぼれして、ロミオの歌が始まる。

ロミオ                    夜の女神の ほほにきらめく 宝石のように  
                              ぼくの手にふれるには 美しすぎる  
                              輝くたいまつ 光を奪う あの美しさ  
                              カラスの群れに降り立った 雪のような 小鳩

                              ああ ぼくの身体は 動かない  
                              金しぼりに あったように  
                              ああ ぼくは 目をまばたきもせず  
                              君に すいつけられたまま

◆パリス伯爵と踊っていたジュリエットは、やがてロミオに目を奪われ、二人は近づいてデュエットとなる。全体のダンスは、二人の運命的な出会いを象徴する構成となる。

ロミオ・ジュリエット    恋人の声は 銀の鈴のように 夜空を 震わす  
                                  耳をすますと 潮騒のような 妙なる調べよ

ロミオ                    ぼくの心は 今まで 恋をしてたなどと 言えるのか  
                                  胸にたぎる 熱いときめきこそ  
                                  偽りないあなたへの愛

——舞踏会が終わり、招待客たちは引きあげていく。

ジュリエット: ねえピトリーナ、あの方はどなた？

ピトリーナ: お嬢様、あれはモンタギューの息子、ロミオですよ。うちとは敵どうしの！

ジュリエット: まあ！

### M08 宿命の恋

運命                    心を こがした あの人も  
                                  今は 忘れて 影もない  
                                  昨日の 思いは 消え果てて  
                                  胸をたぎらす 新たなひと

しかし 仇の 家どうし

たったひとつの愛が  
たったひとつの憎しみから 生まれた  
何も知らずに 出会いがあり  
気がついたとき もう取り返せない  
ふたりは 憎みあう 家どうし

#### M09 バルコニーの誓い

——キャピュレット家の庭園。イントロの間、愛の妖精たちが庭園を優雅に踊っている。  
やがて、部屋に戻ったジュリエットをさがして、ロミオが夜の庭園にしのびこんでくる。

ロミオ 「あの窓からさす光は、なんだろう？  
むこうは東、すると、ジュリエットは太陽だ」

ロミオ 昇れ 明るい太陽よ  
妬み深い月を 消してしまえ  
きみが 自分より 美しいからと  
月は 蒼く染まり 悲しそうに 沈んでる  
夜の闇の中で 輝くその姿  
翼のある 天使 きみこそ 天使

ジュリエット ロミオ なぜ ロミオ なぜ  
ロミオ なぜ あなたはロミオなの  
ロミオ 名前を 捨ててください  
わたしも キャピュレットを 捨てます  
だから お願いロミオ せめて  
わたしの恋人だと 誓って  
モンタギューって 何？  
手でもない 足でもない  
体のどこでも ありはしない ただそれだけ  
名前に 何があるの  
バラの花は その名を どう変えようと  
甘い香りに 変わりはない

コーラス ロミオ ロミオ ロミオ  
ジュリエット ジュリエット ジュリエット

ロミオ 恋の つぼみは 白い夏の風に 吹かれて  
美しい 花をつける  
思いは 海のように 果てなく 深い

ジュリエット 木霊(こだま)が 棲むという  
洞窟が 崩れ落ちて  
冷たい 風の中で  
むなしく 消されようと あなたの 名を呼ぶ

二人 変わらぬ この愛



ロミオ きみに捧げて  
ジュリエット あなたと ふたりで  
二人 世界の果てまで ともに歩きたい

ジュリエット 「あなたはどなた？ 夜の闇にまぎれて、私の秘密を聞くのは」  
ジュリエット ぼくの ジュリエット 名前など  
ジュリエット 紙に 書いてあるものならば  
ジュリエット 引き裂いて しまいたい  
ぼくは ロミオの名を 捨ててしまおう  
そうすれば きみの 恋人だと 誓える  
エンジェル そうすれば きみの 恋人だと 誓える

◆天使の子どもたちが、二人を祝福にあちこちから登場して、踊る。  
天使たちの祝福のダンスの中で、テーマ部分の歌となる。

ジュリエット 「まあ、ロミオ。どうしてここに」

二人 今宵 あなたと 初めて 会って  
この胸が 震える  
小箱の中から 飛び立つ 希望のように  
この心は 羽ばたく  
降り注げ 夜空の 星くずよ  
砂の中から 拾いあげて 銀の鎖に しよう  
あなたと 愛の鎖で つながれるなら  
たとえ 地の果てで死んでも かまいはしない

魔法の力が あなたを 呼んで  
この胸が ときめく  
弓の使い手 キューピッドの矢のように  
とても うるわしい その瞳  
咲き誇れ ま白い 恋のつぼみよ  
夏の育む 息吹を受けて 花を美しく 咲かそう  
あなたの手に その花を 渡すことが できれば  
海の 向こうへでも ふたりで 行ける

幸せな 夢のひとつき いつまでも 朝はいらない  
夜よ 永遠に続け すてきな To-night

2階の下手で乳母がドアを大きくノックする音

ピトリーナ(乳母)の声 「ジュリエット、ジュリエット！」

ジュリエット 「たいへん！ ばあやが来ます。きょうはお帰りになって」

◆天使の子どもたちは、乳母の声とともに、姿を消す。

ロミオ 目に 眠りが  
胸には 平和が 訪れるように  
眠りとも 平和ともなって  
きみを 優しく 休ませたい

おやすみ 別れのとき おやすみ 別れのとき  
 きみに乗せる 小舟になって  
 ぼくは 迎えに くるよ  
 夢の渚を ふたりで どこまでも 進もう  
 おやすみ 別れのとき おやすみ 別れのとき(ロミオ退場)  
 コーラス おやすみ 別れのとき おやすみ 別れのとき  
 Time for good night

ロミオ 「夜が明けたら、ロレンス神父の教会へ行こう。ジュリエットとのことを相談にのってもらうために」

#### M10 ロレンス神父の哲学的レシタティブ

ロレンス 灰色の 目をした朝が  
 渋い色の 夜に 微笑み  
 東の雲を 縁で彩る  
 まだらな闇が タイタンの道から  
 酔っ払いのように 逃げて行く

ロレンス 「ロミオか、ゆうべは家に帰っておらん。まさかロザラインと一緒にじゃったか？」  
 ロミオ 「神父さま、もうその名前は忘れまして。私はジュリエットにめぐり合い、結婚の約束をしました。お願いします、神父さま、私たちの、愛の証人になってください」

ロレンス おお 不思議なもの 草木 金石  
 この地上に 生きとし生けるもの  
 必ずなんらかの 利益をもたらす  
 善も 方法を誤れば 悪となり  
 悪も 活用いかんで 役に立つ

可憐な 恋という 花びらの中に  
 毒もこもれば 薬も宿る  
 若者の恋は 心に宿らず 目に宿る  
 恋におぼれるロミオ  
 ひとつを葬った日に 別の恋を掘り起こす  
 ああ 男 頼みがたき時 女 身を誤る

ロレンス: あれほどロザラインに熱を上げていたのに、あきれたやつじゃな。しかし、おまえさんたちの結婚に、わしも片棒をかつげる大きな理由がある。この縁組が、長年いがみあっている両家の関係を、いいものにすることができるかも、知れんからな。

ロミオ: ありがとうございます。

ロレンス: だが、キャピュレットの両親にないしょのまま、ジュリエットは屋敷を抜け出してこられるのか？

ロミオ: ジュリエットの乳母が、そっと手伝ってくれると言っていました。

#### M11 恋の縄梯子(なわばしご)

——ジュリエットの乳母ピトリーナと召使のピーターが、ジュリエットに協力して走り回る、コミカルソング。

ピトリーナ 暗くなったら 縄ばしごをかける  
 &ピーター それを使って 今夜お嬢様が  
 ロミオのもとへ そっとかけつける

頼みの綱 恋の縄ばしご

暗くなったら 縄ばしごをかける  
汗をふきふき ジュリエットのために  
だけど 夜になったら お嬢様が 汗かく番だよ  
恋の縄ばしご

ピトリーナ 神に召された 娘に代わり  
手塩にかけて 育てたジュリエット  
あの子が 幸せなら わたしは満足  
あの娘に お恵みがありますように  
そのためわたしは 走り回る  
わたしは 恋の縄ばしご

## M12 結婚式

ロレンス 神よ 願わくば  
この聖なる 契(ちぎ)りに ほほえみを  
後日 悲しみを下して  
お叱りくださりませぬように

ロミオとジュリエット 恋人は 夏の風に たわむれて ゆらめき  
たとえば 二人で 蜻蛉(かげろう)にも 乗れる  
互いに 心がつながる ときには  
凍てつく 冬にも 耐えられる  
聖なる言葉が 二人を結べば  
恋さえ滅ぼしてしまう 冷酷な 死といえど  
いったい何が できようか

(2人の幸福なダンス)  
ロレンス 異常な喜びは 異常な結末を 遂げる  
喜びの絶頂で 滅ぶ  
蜜も 甘すぎれば かえっていやになるさ  
そうさ 蜜もなめすぎると 食欲を損なう  
だから 恋も ほどほどにきなさい  
ほどよければ 末は永い

二人 夕暮れの 水辺には 甘い香り 漂い  
光があふれて 夢のような しあわせ

ロレンス: やれやれ。わしの説教も、どうてい聞こえぬか。

——ロミオの仲間が、駆け込んでくる。

仲間G: ロミオ、さがしたぞ。

仲間H: 早く来てくれ。決闘が始まるぞ。

ロミオ: どうしたんだ。

仲間I: (手紙を見せて)ティボルトが、ふざけたものをよこしやがったんだ。

仲間J: こないだの、決着をつけたってな。

ロミオ: なんだって! だめだ、キャピュレット家とは、もう親戚関係になったんだよ。止めなくちゃ。

ジュリエット:私も行きます。  
——全員、急ぎ退場。

### M13 決闘

運命の三女神たち  
ティボルト

(Hey hey hey)  
うじ虫！ (go on go on)  
マキューシオ！ (duel duel)  
ロミオは (bloody hates cast)  
どうした (the war like clouds)  
こしぬけ (over Velaza)  
やろう (today again)  
きさまの腕じゃ マキューシオ  
俺さまの 相手にならぬ  
アン ガルド エト ブ プレ!(さあ構えろ、用意はいいか)  
歌のように リズムを合わせて ちゃんと二つ数え  
ワンツースリーで ずぶりと胸だ  
アン ガルド エト ブ プレ!

マキューシオ

野良猫 (go on go on)  
ティボルト (duel duel)  
犬に (bloody hates cast)  
喰われろ (the war like clouds)  
よわむし (over Velaza)  
やろう (today again)  
けんかっぱやい 猫すけ  
人間さまを 引っかくだけだ  
ラ ファーント バレストラ！ (ジャンプしながらアタックだ)  
初心者クラスの 剣術あそびで  
俺に 勝つわけないぜ  
今夜こそは 決着つけよう  
ラ ファーント バレストラ！

——二人の決闘。ロミオが駆けつけて、止めに入るが、復讐の剣を持つティボルトが、ロミオに気をとられているマキューシオを突き、マキューシオは倒れる。怒ったロミオは剣を抜いて、ティボルトと戦う。ティボルトの剣はロミオの剣を落とす。ロミオはティボルトが剣を振り下ろす腕を止めて、もみ合いになり、ティボルトは復讐の剣で自分を刺してしまい、倒れる。

運命の三女神たち

逃げろ 逃げろ 逃げろ ロミオ  
逃げろ 逃げろ 逃げろ ロミオ  
騒ぎが起こるぞ ティボルトは死んだ  
おまえも 死ぬぞ 死刑の宣告だぞ

早く 早く 早く 逃げろ  
早く 逃げろ 逃げろ ロミオ

### M14 混乱

フロレンス

マキューシオ！ ああ 私の甥が

ああ 神様 ああ あなた  
ああ 血が流された 大事な身内の  
ああ 神様 あなたが 公平なら  
どうか 私たち一族の 血の償いに  
キャピュレットの血も 流してください  
ああ マキューシオ ああ マキューシオ

ラベンナ

ティボルト！ ああ 私の甥が  
ああ 神様 ああ あなた  
ああ 血が流された 大事な身内の  
ああ 神様 あなたが 公平なら  
どうか 私たち一族の 血の償いに  
モンタギューの血も 流してください  
ああ ティボルト ああ ティボルト

◆間奏。両家の悲しみと深まる恨み、対立がダンスで表現される。

二人

ああ 神様 ああ 神様  
ああ 血が流された 大事な身内の  
ああ 私は 忘れない  
今日という日の 悲しみを  
ああ 神様 ああ 神様 ああ 神様 ああ 神様  
正しい お裁きを

伝言官A:元老院の裁定を伝える。ロミオは、ここヴェローナの町から追放とする。

伝言官B:ロミオは、明日の夜明けまでに立ち去ること。

### M15 ロミオの追放

運命

涙も 祈りも 犯した罪を 償えない

運命の三女神たち

(Verno is banished)

運命

願いも 言い訳も すべて 届かない

(Verno is banished)

両家の憎しみの 争いが

(Verno is banished)

またひとつ 悲劇を 作る

(Verno is banished)

◆運命とその三女神たちが、ロミオの運命を弄ぶかのように、縦横に歌いまくり、運命のダンサーたちが、ロミオとジュリエットを翻弄する。三女神たちが悪魔の使いにも見えてくる、激しく乱れるダンスシーンが、全曲にわたって繰り広げられる。

三女神たち

Banishment 追放

Banishment 死よりも 恐ろしい

Banishment あるのは 煉獄ばかり

Banishment 死刑の ごまかし

Banishment 金の斧で 首を打ち落とす

Banishment 死刑ではない 追放

Banishment 悪魔の言葉

Banishment 地獄のうめき声

天国は ヴェローナ ジュリエットのところ  
猫もネズミも 天国に住み  
ジュリエットの顔を 見る事ができる  
だが ロミオには それができない できない

天国は ヴェローナ ジュリエットのところ  
汚物にたかる ハエであろうと  
ジュリエットの白い手 ふれる事ができる  
だが ロミオには それができない できない

Verno is banished  
ロミオは 追放

### M16 変わらぬ愛

ジュリエット

おお 自然の神様 あなたは地獄で  
どんなお裁きを なさっておられるのですか

花の顔に隠れた 毒蛇のような 心  
あんなきれいな洞窟に 恐ろしい竜が  
潜んでいるのかしら

天使のような悪魔 狼の心を持った羊  
さあ 嘆きのラッパよ  
この世の終わりを 告げるがいい

信じられない報せ 呪わしい あの言葉  
わたしの胸は 張り裂けそう  
ティボルトの死よりも 悲しみがのしかかる

ロミオの追放 それだけで  
一万人の ティボルトが死んでも同じ  
さあ 地獄の遣いよ  
わたしの命も 奪うがいい

——絶望に疲れきったロミオが、ジュリエットのもとへ現れる。二人はゆっくりと奥へ入っていく。

——1幕おわり。 休憩 15分

### ——第2幕

M17 夜明けの別れ

ロミオ

ひばりの あの声が ぼくらの 別れを告げる

ジュリエット           いじわるな 光の束が 東の空で  
雲に 飾りを つけ始めた  
二人                    夜の明かりは 燃え尽きて  
素早い朝が 山の頂(いただき)から  
こちらを 窺(うかが)っている

ロミオ                 あの朝日が マンチュアへの道を  
照らしてくれるだろう  
さよなら ジュリエット 別れのときだ  
もう 涙を拭いて 送っておくれ

たとえ 遠く 離れても  
ぼくは必ず きみのもとに 戻るから

——キャピュレット家。

オルブラス: ジュリエットは、どうしておる?

ラベンナ: 部屋にこもったまま、泣いております。

ピトリーナ: 食事も召し上がりません。

オルブラス: 兄のように親しかったティボルトが、あのような死に方をしてしまったからな。無理もなからう。

ラベンナ: さきほどから、パリス伯爵も心配して、おいでになっています。

——パリス伯爵が、悲しみに沈むジュリエットに語りかける。

#### M18 パリス伯爵の求婚

いま きみが 絶望の淵に立ち  
月の女神が 青白い光を  
きみの額に 投げかけていようと  
やがて 太陽は 夜の霧を 吹き払い  
朝を 呼ぶよ さあ ジュリエット  
閉ざされた 窓を開けて 光を入れてごらん  
そして 私を信じてくれ  
暗く 果てない夜も ここで 終わるよ

いま きみの 涙も涸れ果てて  
わずかな 翳りも知らぬ きみの瞳が  
深い苦しみを まとっていようと  
やがて 朝もやの中に ひとすじ輝く  
光が差すよ さあ ジュリエット  
閉ざされた 窓を開けて 光を入れてごらん  
そして 私を信じてくれ  
暗く 果てない夜も ここで 終わるよ

オルブラス: パリス伯爵。娘との結婚式を、早めていただけないか。

パリス: しかし、ご親戚が亡くなったばかりで、よろしいのですか?

オルブラス: いや、このままでは、娘が病気になってしまう。むしろあなたが身内になって、娘を見守って  
いただければ。

ラベンナ: 悲しみは、幸せが消してくれるもの。私からもお願いいたします。

パリス:ご両親がそうおっしゃるのであれば、私には異存ございません。  
オルブラス:では、あさっての木曜日、ロレンス神父の教会で。

#### M19 木曜日は教会へ

オルブラス 木曜日は ロレンス教会へ 行きなさい  
パリスさまと 馬車に乗って  
ロレンス教会へ 行きなさい  
誉れ高き 名門の家 お人柄も 申し分なし  
木曜日は 結婚式だ

ラベンナ いつまで 泣いている つもりなの  
ティボルトが死んだからと  
悲しむだけでは 浮かばれない  
だから 泣くのは もうおやめ  
涙は まごころのしるしだけれど  
あまり悲しむのは 利口でない

オルブラスと  
ラベンナ 木曜日は ロレンス教会へ 行きなさい  
パリスさまと 馬車に乗って  
ロレンス教会へ 行きなさい  
誉れ高き 名門の家 お人柄も 申し分なし  
木曜日は 結婚式だ

(ジュリエットはピトリーナに助けを求めに行く)

ジュリエット お願い ばあや 力をかけて 助けて  
ロミオとは もう夫婦の誓いを 神様の前で 交わした  
鋼のように 固い約束 誰の手でも こわせはしない  
パリス様に お断りをして

ピトリーナ ロミオは もう 追放になって  
人目を 忍んでこなければ  
あなたのところへ 戻れない  
だから ロミオなど もう忘れて  
パリスさまの お嫁になるのが  
今となっては 幸せの 道でしょう

両親と乳母 木曜日は ロレンス教会へ 行きなさい  
パリスさまと 馬車に乗って  
ロレンス教会へ 行きなさい  
誉れ高き 名門の家 お人柄も 申し分なし  
木曜日は 結婚式だ

ジュリエット(重ねて) 「ああ、みんなそろって、どういうこと！  
気でも狂ったの？ ばあやまでが。私は嫌！ 私は嫌だ！」  
(両親と乳母、ジュリエットが取り乱したので、退散する)

ジュリエット 何てことよ 裏切りばあや 許せない



悪魔のように わたしにまで 誓いを破れと 言うとは  
でも わたしは まだ負けない  
どんな運命も わたしが選ぶ  
死ぬ自由だって まだ残っている

——ロレンス神父が、そっと登場して様子を見ていた。

ロレンス:うーむ。むずかしいことになったのう…

ジュリエット:神父さま、何かよい方法は。

ロレンス:ないことはない。危険な方法ではあるが。

## M20 薬を授けるロレンス神父

ロレンス                   ジュリエット 蛇のいる穴の中に 潜りこめるか  
ほえ狂う 熊と一緒に つながれても 平気か  
からからと ぶつかり合う 骸骨や死人の足が  
散らばっている墓の中に 閉じ込められても 平気か

ならば パリスとの 結婚を承諾するのだ  
そして 明日の夜に この薬を 飲むがいい  
たちまち 体じゅうの血管に 冷たい血が 行き渡り  
死んだように見えて 息も止めてくれるだろう

しかしそれは 32 時間だけの ひとときの姿  
おまえは 墓の中 やがては 目が覚める  
そこには ロミオが いるだろう  
そして おまえは 行くのだ マンチュアへ  
その町で ロミオとの  
新しい人生を 見つけるがよい

さあ 薬を 手に 取りなさい  
勇気を出して さあ 薬を

ジュリエット               愛よ わたしに 勇気を与えておくれ  
愛よ わたしに 勇気を与えておくれ

オルブラス:そうか、ジュリエットがパリス伯爵との結婚を、承知したか。

ラベンナ:では早速、披露宴の準備をいたしましょう。

オルブラス:そうそう。女の気持ちは変わりやすいものだからな。

ラベンナ:あなた、それは私のことをおっしゃってます？

オルブラス:いや、そういうわけでは。

召使:だんな様、急に明日までにと言われましても、とても人手が足りませぬ。

オルブラス:無理は分かっている。悪いが、子どもの手でも、猫の手でも借りて、なんとかやってくれ。

召使:はは一つ。

## M21 徹夜の召使たち

召使たち                   さあ忙しい さあ忙しい さあ忙しい さあ忙しい  
明日の仕込みを しなげりやならぬ  
今夜は 徹夜だ まかしとけ

ジュリエットの 結婚式だよ

この椅子を かたづけろ 食器棚を 運ぶんだ  
おっと 皿を落とすなよ  
おめでたい 結婚式だよ

◆パリス伯爵との結婚を承諾したジュリエットの、結婚式の準備をするため、キャピュレット家の召使たちが子どもたちも総出で、忙しく徹夜で働きまわる、コミカルなダンス。

さあ忙しい さあ忙しい 塩はあそこだ 胡椒はそこだ  
杏(あんず)のお菓子は 残しておけよ  
俺たちが 食べるぶんくらい  
ジュリエットの 結婚式だよ

さあさあ 働け 働けー 二番どりが もう鳴いた  
夜明けの鐘だぞ もう3時 Ah- Ah- Ah-  
ジュリエットの 結婚式だよ

——ジュリエットの部屋。薬を手に、ジュリエットが葛藤している。

## M22 偽りの死

ジュリエット

不安だ 温かい 命の血が 凍ってしまう  
不安だ バラ色の 唇や頬 褪せてしまう  
不安だ (不安だ)

不安だ この薬に 何の効き目も ないのでは  
不安だ 明日の朝 いつものように 目覚めるのでは  
不安だ (不安だ)

不安だ ロミオが 来てくれる前に 気がつくのでは  
不安だ 墓の中で 息が詰まってしまうのでは  
不安だ (不安だ)

◆ジュリエットの不安を象徴する死神のような、白いベールに包まれたダンサーがジュリエットを取り巻いて踊る。ティボルトの亡霊も、幻想として現われる。

ああ きっと 真っ暗な  
夜の 恐ろしい 幻が浮かんでくる  
目が覚めたら わたしは 気が狂いそう  
おお あそこに ティボルトの亡霊  
ロミオを探してる 剣を手に  
殺された 仕返しを しようとしている  
待って ティボルト!

愛よ わたしに 勇気を与えておくれ  
愛よ わたしに 勇気を与えておくれ  
(神父から与えられた薬を飲み、倒れる)

———オルブラス夫妻、召使登場。

オルブラス:よくやってくれた。結婚式が無事に終わったら、みなにお礼をはずむからな。

ラベンナ:さあジュリエットがもう起きてるか、見てきましょう。

### M23 両親の嘆き

ラベンナ

ジュリエット ジュリエット ジュリエット ジュリエット  
ああ ジュリエット！  
目を開けておくれ 生き返っておくれ  
おまえが 死ねば  
わたしも 一緒に 死んでしまう  
死神が 思いがけない 霜のように 降りてきて  
野原の 美しい 一輪の花を 枯らしてしまった

オルブラス

ジュリエット ジュリエット ジュリエット ジュリエット  
どうした ジュリエット！  
目を開けておくれ 生き返っておくれ  
死神が わしの婿となり  
跡継ぎとなりおった なんてことだ  
憎んでも 飽き足らぬ 死神 おまえに だまされた  
娘と 一緒に わしの夢は 棺に入ってしまった

二人

祝いの曲は 淋しい鐘に 取り替えろ  
めでたい酒は 弔い客の もてなしに  
明るい賛美歌は 沈んだ挽歌にしろ  
花束で ジュリエットの 遺骸を包むのだ

ロレンス:両親には、申し訳ないがの。さあ次は、このことをロミオへ知らせに走らねば。

———マンチュアの町。ひとりロミオがいる。

### M24 マンチュアの白い午後

ロミオ

きみのいない この町  
けだるい午後が 日暮れを待って  
風になびく シルクのカーテン  
枯れた花に 倒れたグラス  
独りぼっちの この部屋で  
独りぼっちの この部屋で ぼくは…

(マンチュアへ急ぐロレンス神父は、体の不自由な男からすがりつかれ、話を聞いてやるため、わき道へそれる。その間、ロミオの下僕が別の知らせを届けにくる。ロミオは知らせを見て呆然とする。)

ヴェローナからの 知らせ  
二度と還らぬ いとしい ジュリエット  
疲れ果てて 途切れた 愛  
窓から射す うつろな光

ああ ジュリエット 愛していた  
ぼくは 愛していた

それが なぜ ここにいる  
こんなところで 生きている  
ジュリエットは 死んだ  
風に散る バラの花のように

なぜ あのとき 言えなかったのか  
二人で 地の果てまで 逃げようと  
ああ ジュリエット 愛していた  
愛していた ぼくは

ぼくも 眠ろう 今夜 ヴェローナで  
それまで 待っていておくれ

ロミオ この国では、死ぬ薬を売ることは禁じられている。だが、町外れにあった、あのいかがわしい看板の薬屋、あいつなら売らさう。おそらく、元気になれる薬だとか、たてまえを繕いながら。

## M25 薬売り

マジョーレ

薬はいらんか 飲めばたちまち 血管に行き渡り  
苦しみが すぐ止まる  
弱ったやつも からだじゅうに力が よみがえるのさ  
とびきり よく効く 薬じゃ

薬はいらんか 元気がないやつ 一服で すぐ治る  
猛烈な 爆弾が 飛び散るように  
からだから病気を 吹き飛ばすのさ  
とびきり よく効く 薬じゃ

◆ロミオに毒薬を売る、薬売り・マジョーレのイメージを表す死神ダンサーたちが、テンポの速いリズムに乗って、ロミオをあざ笑うかのようなダンスを繰り広げる。

おまえの目には 絶望が 渦を巻いておるではないか  
背中にゃ 骸骨 ぶら下がっておる  
この世のおきては 冷酷だろう  
おまえを 見捨てて 逃げたろう  
そんな おまえに よく効く薬  
さあ 持ってけ この 薬を

——ロミオは薬を手にして退場。入れ違いにロレンス神父が登場。

## M26 すれちがい

ロレンス

運命

ロミオ ロミオ どこにいるのだ ロミオ  
ロミオはこの町に いない  
ジュリエットの悲しい知らせを胸に  
早馬を飛ばして 行った ヴェローナへ 骨をうずめに  
だれが そんなことを 教えたのだ  
忠実な ロミオの僕(しもべ)さ  
とちゅう ゆきずりのざんげで 道草をした おまえより

ロレンス

運命

ロレンス そいつのほうが 早かった  
 「気の毒な病人に出会い、やむを得なかったのだ。だが、そのためにロミオと  
 行き違いになってしまったか。こうしてはおれぬ、急いでヴェローナへ戻らね  
 ば。墓の中で、ジュリエットが目覚めます」  
 運命 おまえの 関わったのは 疫病患者  
 疫病の疑いが 晴れるまで  
 おまえは この町で 2時間足止めされるだろう  
 (ロレンスは役人に囲まれ、止められる)  
 ロレンス そうか おまえが ロミオの運命をもてあそび  
 マキューシオを ティボルトを 殺したのだな  
 運命 人の運命(さだめ)は 自らが 選ぶ  
 おまえが ざんげで 遅れたように  
 すべては 自分で決めたこと  
 わたしはそれを 見つめているだけ  
 ロレンス 「おお、行かせてくれ。ジュリエットが、ロミオが危ないのだ！」

——深夜、キャピュレット家の墓地。ジュリエットの墓の前にパリス伯爵がいる。

#### M27 パリス伯爵の愛

パリス ジュリエット ぼくは 信じられない  
 あの朝 突然に この世を去った  
 ウェディング・ドレスを 残して  
 いま きみは 冷たい石の下  
 花をささげて きみのベッドを 飾る  
 水が 枯れたら 悲しみにしぼる 涙を添えよう  
 きみにささげる 心の手向けに  
 夜ごと きみの墓に 花と 涙を

パリス だれか来る。こんな真夜中に。(隠れる)

#### M28 墓をあけるロミオ

コーラス 暗闇の中 ロミオの足音が  
 土くれを 踏みしめて ロミオが やってくる  
 亡霊のように さびしいその姿  
 たいまつに照らされて ロミオが やってくる

ロミオ 恐ろしい 地獄だ 俺の心も 狂いたつ  
 獲物を求め 荒れ狂う 狼の心  
 おのれ 死人を食らう 忌まわしい胃袋よ  
 腐った きさまのあごなど こじあけてやる

——ロミオが墓を開けると、横たわるジュリエットの姿が現われる。

パリス:そこにいるのは、モンタギュー家のロミオだな。

#### M29 パリス伯爵の選択

パリス モンタギュー！ 恥知らずなまねは やめろ  
 ティボルトを 殺しても 飽き足らず  
 ジュリエットの遺骸にまで 仕打ちを加えるのか

天に代わる このパリスの剣を 受けてみろ  
(2人の戦い。パリス伯爵はロミオの剣に刺され、舞台上手へ消える)

ロミオ： 悪いな。もうすぐ、あの世であった時に、お詫びを言わせてもらおうよ。

### M30 ロミオの選択

ロレンス：(墓場へ駆けつける途中。前奏に重ねて)ロミオ！ ジュリエットは死んだわけではないのだ。早  
まっではいかんぞ！（舞台袖へ入る）

ロミオ                   きみの 蜜のような 甘い息を  
                          吸い取ってしまった 死神も  
                          バラのような きみの美しさを  
                          どうすることも まだ できないよ

                          おお ジュリエット なぜきみは  
                          死してもこのように 美しいのか

                          墓場に 棲みついている 魔物たちも  
                          きみに 恋していると いうのだろうか  
                          それが心配だから ぼくはここに  
                          いつまでも きみのそばを 離れないよ

                          運命の 頸木(くびき)を 振り落とし  
                          人生に 疲れた このからだから  
                          宿命に 呪われた 束縛を  
                          力の限り いま 断ち切るのだ  
                          さあ 命知らずの 舵取りよ  
                          あの岩かどへ 船を ぶつけてくれ

                          荒波に 破れ果てた この船に もう港はいらない  
                          嵐の海も 深く沈めば 安らぎが  
                          さあ 恋人に 乾杯だ  
                          「薬屋マジョーレ、お前の薬は、よく効くぞ」

——ロミオ、倒れる。ジュリエットが目を覚ましていく。ジュリエットは、そばに倒れているロミオを見つ  
て絶望する。

### M31 ジュリエットの選択

ジュリエット           暗い夜に 目が覚めて そこは墓の中 何もない  
                          だれか そばにいてほしい  
                          けれど なぜか 冷たいロミオが ここに

運命                   「神父が、ロミオにおまえのことを、伝えそこなった。ロミオはそれを知らずに、  
絶望した。おまえが恨むものは何か？」

ジュリエット           「私は、だれも恨まない。神父さまからいただいた薬を、飲んだのは、私です。  
ロミオ、ごめんなさい」

ジュリエット           その口で 口づけを もう一度私に  
                          そのくちびるから あなたの命を奪った 薬を 私に  
                          愛し合い 傷ついた 私たちに  
                          残された ただひとつの 安らぎ

さあ 剣よ ここが おまえの鞘(さや)  
さあ ここに おさまっておくれ

———ジュリエットが、復讐の剣で自らを刺そうとした時、神秘的な光と音が轟き、ジュリエットは倒れる。  
直後に、ロレンス神父が駆けつける。

ロレンス： ああー、遅かった。すまぬ、ロミオ！ おおジュリエットもか！

### M32 レクイエムからの復活

ロレンス 魂の 入り口を 赤く染め 若い血が流れた  
死や 不自然が 眠り 巢食うところに  
また命が 呑みこまれた  
人の力の 及ばぬ大きな 力に  
人のもくろみは もろくも破れ  
青春が 断ち切られて むなく消えた

(両家の両親、一族たち、市民たちが現れる)

市民たち いくつかの 真実と いくつかの 愛  
いくつかの 青春と いくつかの 命

ロレンス わずかのすれ違いに 引き裂かれた 二人の愛  
すべては 私のあやまち 還らぬ 命

市民たち いくつかの 真実と いくつかの 愛  
いくつかの 青春と いくつかの 命

両家の親たち 恨みや 憎しみから 生まれるものは ただ 憎しみ  
赦しあおう きょうだいよ 戻らぬ息子に 娘に誓う

運命 赦しあう者には 平和と 安らぎが宿る  
ジュリエットは その不幸なときに だれも恨まず  
復讐の連鎖が切れた  
キャピュレット家に 伝わる 復讐の剣は  
5 百余年の 呪いから 解き放たれて  
正義の剣に 戻ることができた

(市民たちの詠唱が続く中で)

「ジュリエットは 再び目を開けるだろう」

(ジュリエットが起き上がる。驚き、喜ぶ両親たち)

「正義の剣は ロミオを侵した毒を消し  
ロミオの魂が 地獄の門をくぐる前に  
この世へ 呼び戻すだろう」

(ロミオが生き返って立ち上がる。喜ぶ両親たち。ジュリエットと抱き合う)

市民たち いくつかの 真実と いくつかの 愛  
すべては 赦しあう そのときに  
よみがえる 命

運命 恨みの剣の刃(やいば)で その命を 落とした者も  
奇跡の力で よみがえるだろう

(ティボルト、マキューシオ、パリスが生き返って、現われる。皆が祝福して迎える)

全員

静かに 輝く 夜明けがくる  
太陽も 微笑を 投げかけ昇る  
赦される者 生きて行く者  
すべての魂を 優しく包む 朝がいま  
ヴェローナに 訪れる

いくつかの 真実と いくつかの 愛  
いくつかの 青春と いくつかの 命

いくつかの 真実と いくつかの 愛  
いくつかの 青春と いくつかの 命

幕